

令和2年3月13日

西部農林振興センター 益田事務所 農業普及部

標 題	本年産ぶどうで「施設外就労」実証展示ほを設置！ ～西いわみぶどう部会と連携して～
-----	---

(ダイジェスト)

益田市は昨秋に策定した「ますだ食と農の基本計画」の担い手確保・育成対策の一つに農福連携を位置付け、「チーム益田農福」で検討を重ねてきた結果、まずはぶどう部会と連携して、「施設外就労」実証展示ほを設置することにしました。

3月11日のぶどう部会役員会で概要を説明したところ、皆さんの了解が得られ、「本年産ぶどうから、そして出来ることから取り組んで行こう」と確認されました。

昨年6月に市が行った認定農業者・認定新規就農者に対する労働力実態アンケートの結果から、ぶどう農家の労働力不足が顕著であること、その多くが障がい者雇用に関心を持っていることが分かりました。その後、11月に島根県障がい者就労事業振興センター（以下、振興センター）が行った実態調査からは、市内の4福祉事業所が施設外就労を拡大または検討中の意向を持っていることが把握できました。

これらの結果及び1月28日（火）のワークショップ（令和2年2月3日第25号普及情報参照）の結果を踏まえチーム益田農福で協議したところ、ぶどう部会と連携して取り組みを始めることとし、その第一段として部会に「施設外就労」実証展示ほの設置を提案することになりました。

【ぶどうで取り組む理由（前述を除く）】

- ◇部会で検討中の産地ビジョンに農福連携が位置付けてあり、協力が得られる
- ◇ハウス内での作業が主であるため、天気左右されない
- ◇出雲市に先事例があり、参考にすることができる

役員会では、展示ほ周辺にトイレ・休憩所等の環境が整っていること、設置農家が事業所支援員に作業指導等ができること、そして振興センターの農福連携障がい者チャレンジ事業を活用すること、複数の事業所による取り組み（福福連携）も考えていること等を中心に説明し、「どんな作業が出来るのか」「どの程度の環境が必要か」といった質問がありましたが、皆さん前向きに理解され、出来ることから取り組んでいこうと確認がなされました。また、その場で1名の認定新規就農者から展示ほを設置したいとの意向が示されました。

農家側も福祉側もお互いの状況を知らない中で第一歩を踏み出します。まずは部会役員、福祉事業所、関係機関が集まり、出雲市の事例を共有すると共に、それぞれが抱えている不安材料を洗い出し、その解消を図ることから始めたいと考えています。